

～ダイナミックシティ大垣の創造～ 市長との夢・未来トーク

団 体 : デジタル・アーカイブ・アライアンス
テ ー マ : 映像による地域文化の発掘・発信
日 時 : 平成18年6月22日(木) 19:00～21:00
参加人数 : 9名

団体紹介: 日本及び欧州が有する文化遺産等の有効活用による国際的なネットワーク等を構築し文化の振興を目的に任意団体として設立された。

映像づくりを通じて人々が、周囲を見つめ直し、つながり、お互いに助け合い磨きあうことを願いつつ、事業の継続的かつ大胆な事業推進を図るために平成14年2月22日にNPO団体としてあらたなスタートを切った。

大垣市の市民活動団体にも登録され、今年度は「みんな DE シネマ Vol.1」事業を「かがやきライフタウン・大垣」パートナーシップ事業に登録し、映像を通じた大垣のまちづくりに積極的にかかわっている。



【トーク内容】

【小川市長】

みなさん、こんばんは。スイトピアにも展示会がありますが、デジタル・アーカイブ・アライアンスさんのような映像の企画は少ないです。かんじんな分野なのにあまり注目されていないので、ありがたい活動です。映像の果たす役割は大きい。NPO団体も立ち上げてもらいありがたいことです。

【会員】

3年前からは西濃映像祭を開催しています。大垣が情報ネットワークの集積地になればなぁと思っています。映像文化とまちが盛り上がっていけば良いと思います。

【会員】

貴重な映像、例えば伊勢湾台風の映像、西濃地区のものをいろいろデジタルで残しておいています。イベントの時などに、貴重な16ミリフィルムをもっと大垣で使ってほしいです。

【小川市長】

16ミリフィルムなどは劣化するでしょう。だからデジタル化ですね。16ミリの再現をよろしくお願いします。

【会員】

ハイビジョンシアターを有効利用するため、図書館で第2・第4日曜に子ども用ビデオや、地域の人々のビデオを放映していきたいと思っています。いろいろな人・団体からの投稿があると良いですね。『わくわく映像ランド』と名付けました。

【小川市長】

ハイビジョンはきれいですね。電波に乗ってない映像、地域の映像を発信・受信したいですね。日本では特定の発信元からの映像ばかり見ている。地域の歴史の映像を見たがっている人もいますね。空き店舗を利用した映像発信をお願いしたい。

【会員】

週末大垣市に行くと街角上映会が点々とあるという構想を描いています。

【会員】

今年のビエンナーレは10月6日から15日にして十万石まつりにぶつけます。I A M A Sは市民の方から遠いものと思われていますので、駅前に出てきて市民の方と協力してやっていきたいです。

【小川市長】

I A M A Sは市民から遠いかな？ これからも良い映像文化を発信してください。

【会員】

この前は西大垣駅が映画の舞台となりました。企業誘致のごとく映画を誘致してほしいです。尾道市もそれで全国にPRしていきました。どこにでもあるまちが映画で有名になっていったのです。

【小川市長】

大河ドラマなどで大垣を題材にしたり、宝暦治水などもありますね。城郭でも天守閣の無いまちが賑わっている、絵になっている。長浜、萩でもそう。風化したものが良いのです。近江八幡などもそう。戦争で焼けてない所が良い。中途半端に人工的に作るものは良くない。きちっと復元して作らなければならないですね。

【会員】

「クイズあり」というワークショップでは、子どもに映画を見せる前に「おじゃる丸が右手に持っていた巻き物の色は何色だったでしょう？」というようなクイズを出します。子どもは必死になって映画を見るのです。全国にいろいろワークショップがあるけれど、お金をかけないでできることがあると思います。

【小川市長】

子どもが対象と考えると出てこない発想ですね。未知の分野であり、やることは山ほどあるので頑張ってください。